

2019年10月27日
マスターズ部会 関谷淳一

「第5回グランドマスターズホッケーアジアカップ Donghae 報告」

2019年10月17日から23日の期間、韓国の東海市(Donghae)で開催された、アジアカップの報告を以下の通り致します。

試合の年齢カテゴリーは年齢60歳以上、65歳以上の2部門、65歳以上部門にはトーナメント・トロフィーの種別(T/T)もオープン競技として参加した。

参加国は、60歳以上は、日本・韓国・香港・シンガポール・マレーシアの5チーム。65歳以上は、日本・韓国・シンガポールの3チーム。T/Tの参加チームは、イングランドLX・アライアンス・豪州サザンクロスの3チームであった。

日本チームの成績は、60歳以上は2位(優勝マレーシア)、65歳以上が優勝(2位マレーシア)であった。今大会から65歳以上部門が新設さて、日本が初代王者となった。

今回のアジアカップの大会全般の開催概要は下記の通りです。

- 1 大会開催の事前の準備作業については、参加国との情報共有が不十分な面等からか、大会の試合日程、会議等の日程が直前まで確定されなかった。
- 2 競技運営面では、天候にも恵まれて、スケジュール案通り運営された。試合規則面でのトラブルは発生しなかった。TD・UMは韓国人であった。更に運営面の取り仕切り役で英語が堪能な韓国人が補佐して、各チームのリエゾー的な役割を果たしていた。
- 3 競技施設は、国際基準のウオーターベース2面が隣接しており、ベンチ、観客席、更衣室、シャワー室、会議室、医療室等の管理設備も充実していた。スコアボードは2面とも電子ボードで得点、時間表示もデジタル掲示で国際級であった。
- 4 試合会場でのサービス面では、水は無償提供された。氷は、各チームの自己手配であった。医療対応としては、救急車が2台、会場に常駐しており、怪我人を病院まで緊急搬送できる体制を整えていた。ボランティアでコーヒーコーナーのテントがあったが、大会グッズ等のマーチャンダイジングはなかった。
- 5 パーティーは韓国ホッケー協会の会長以下300人の参加者、会費は米\$35で東海市では最高級のホテルで開催された。最初にアトラクションとして子供達の伝統武術があり、韓国要人の挨拶、記念品の贈呈(前回広島大会への感謝)、お土産交換参加チームの紹介等で1時間を要した。その後乾杯に移り、会食開始した。料理は前菜、グリル、寿司、洋食等多種大量で着席、ビッフェでも混乱なく、料理も十分であった。宴会が盛り上がったのは舞台上でダンスが始まり、韓国人が歌を披露、その人が吉田トラさんのそっくりであり、ツウショット。アライアンスの方が、ギターを弾いて“日本の

歌”ふるさと”を合唱したハプニング等で、パーティーにおいて一体感が醸造された。

6 閉会式は、60歳以上の決勝戦後、グラウンドでメダル授与中心の内容。各国のチームともMIXしての記念撮影。次回、WC 東京での再会を期待して解散。

以上